



ぼうさいこくたい2018 セッション

防災教育交流フォーラム

～今、防災教育に足りないものは何か～』

防災教育実践に関するアンケート調査

結果報告

一般社団法人防災教育普及協会
2019年1月



アンケート調査の概要

- 本アンケートは2018年10月14日(日)に「ぼうさいこくたい2018」セッションとして弊会が主催した『防災教育交流フォーラム～今、防災教育に足りないものは何か～』の参加者に対して、無記名で行ったものです。
- アンケート項目は防災教育チャレンジプラン・内閣府(防災担当)が作成した『地域における防災教育の実践に関する手引き』を参考としました。手引きは以下のURLからPDFでダウンロードできます。

http://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/h27bousaikyoiku_guidline_jp.pdf

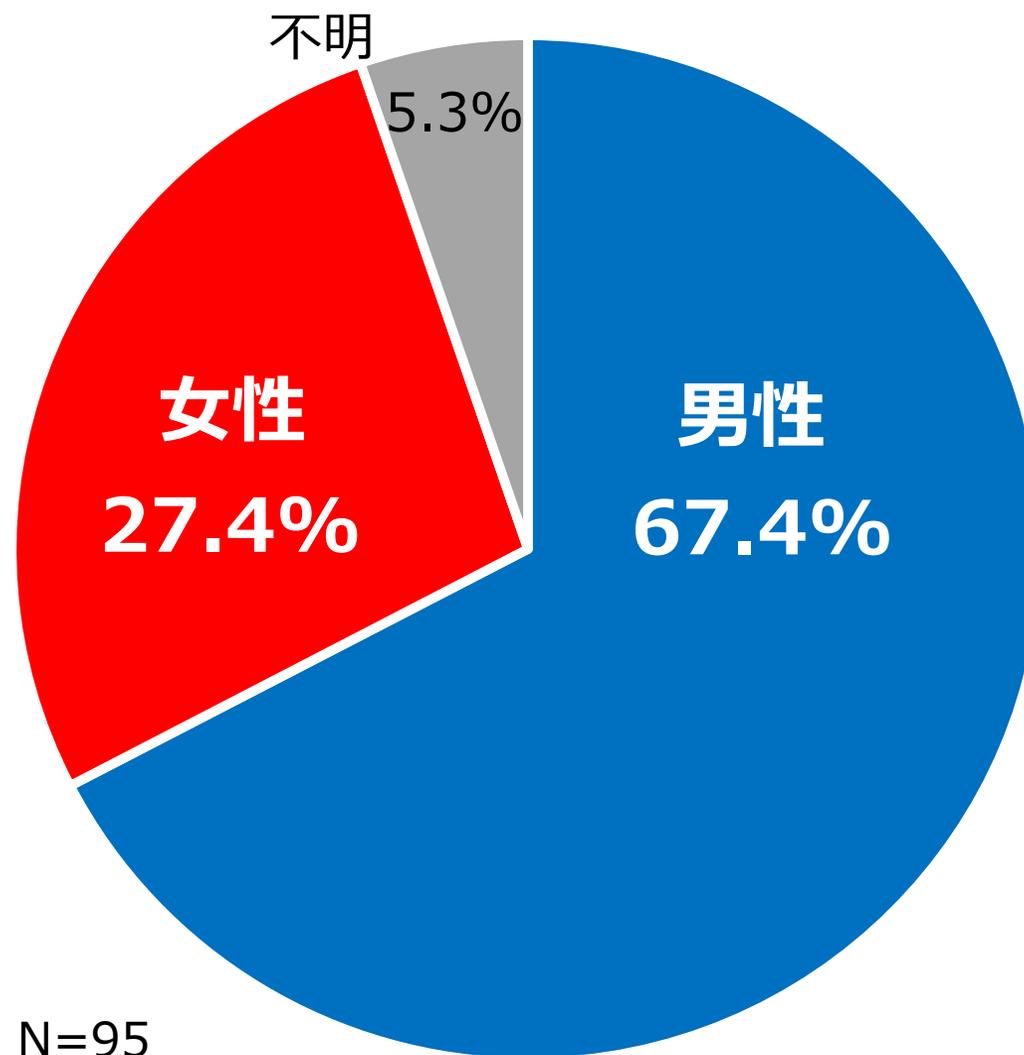
謝 辞

アンケートの設計・分析にあたっては、木村玲欧氏（兵庫県立大学環境人間学部准教授、弊会理事）及び赤瀬蓮氏（兵庫県立大学環境人間学部4年生）にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



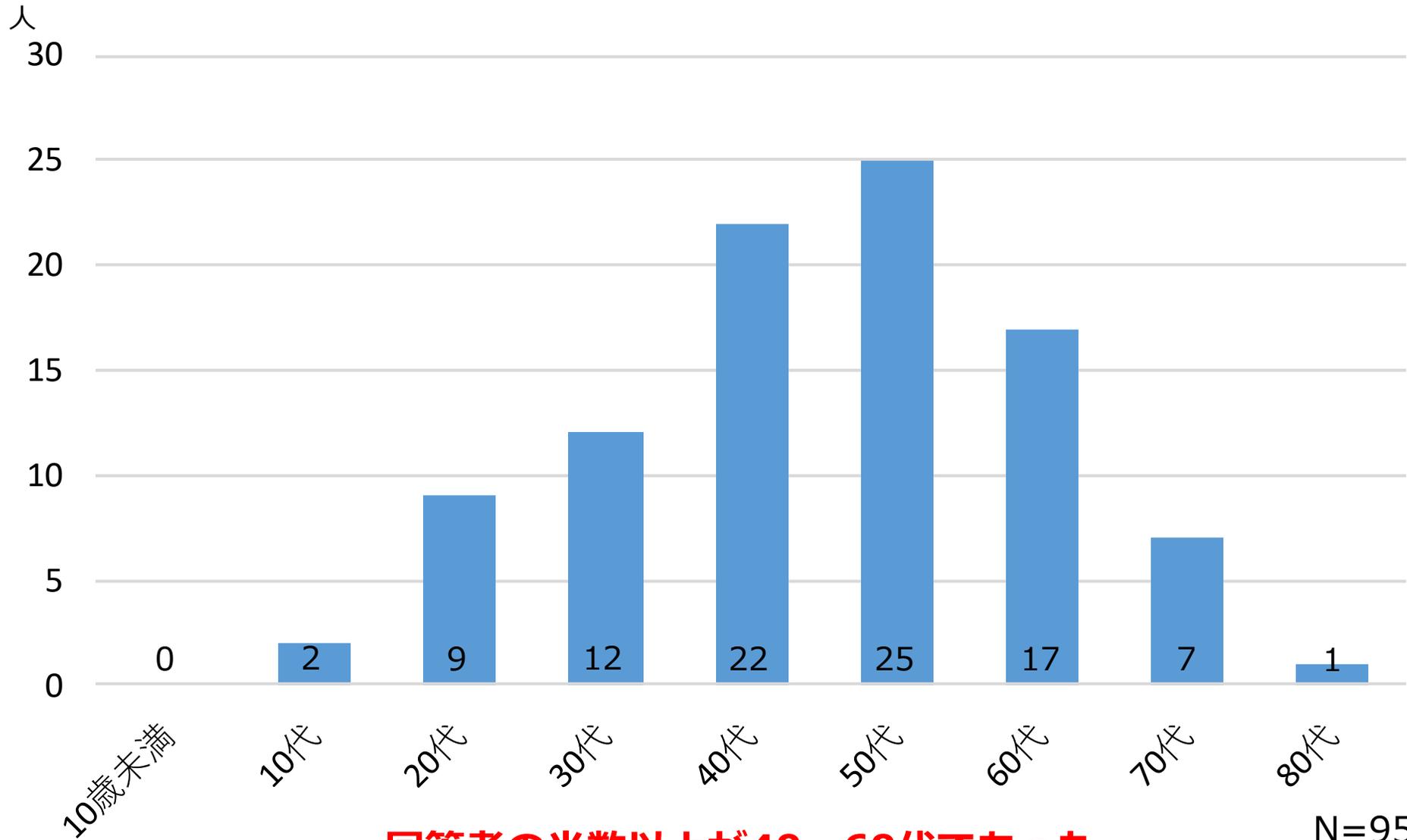
- アンケート回答者の性別割合
- アンケート回答者の年齢分布
- 防災活動・防災教育を行っているか
- 防災活動・防災教育開始年
- 活動の対象
- 今後、防災活動・防災教育に取り組む中で課題に感じている事
- 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまる事
- 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまる事の因子分析結果
- まとめ

アンケート回答者の性別割合



回答者の67.4%が男性、27.4%が女性であった

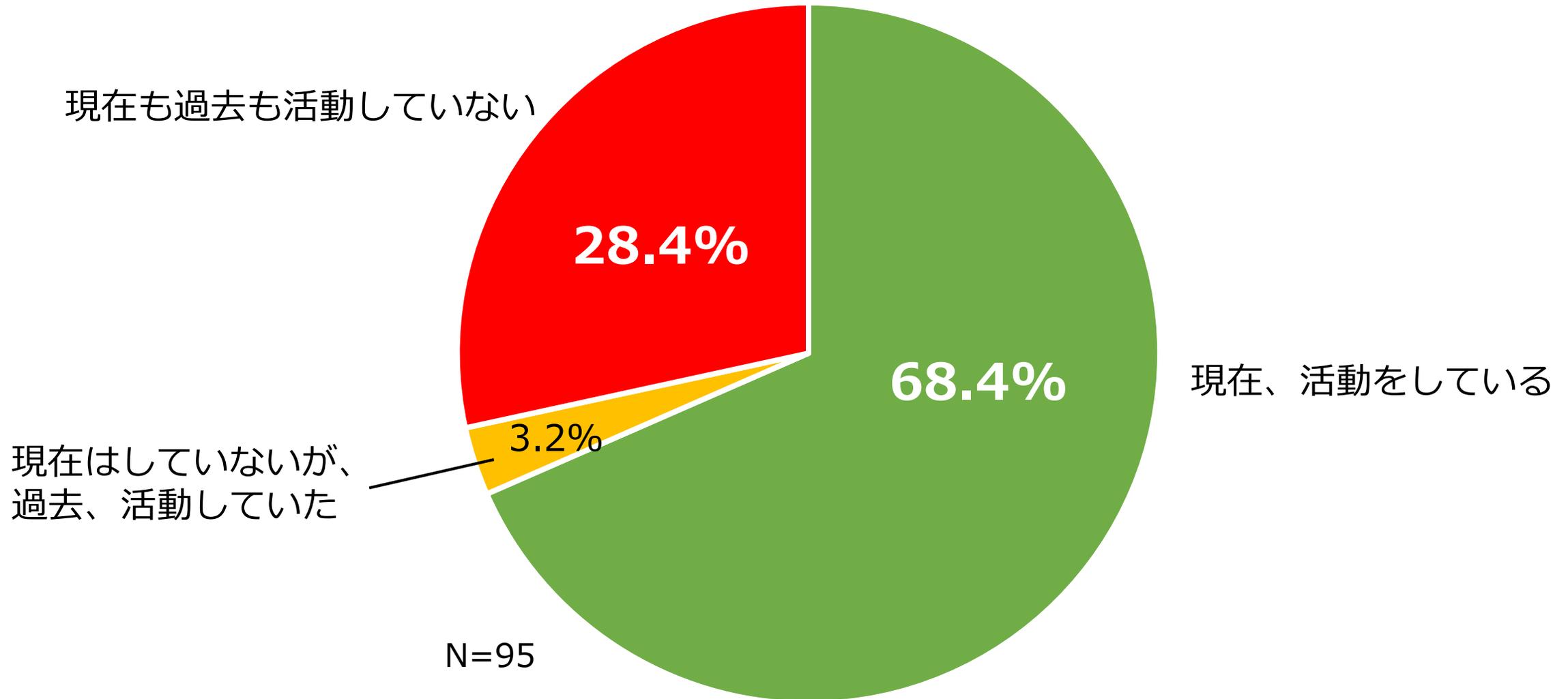
アンケート回答者の年齢分布



回答者の半数以上が40～60代であった



自身の防災活動・防災教育実践の状況

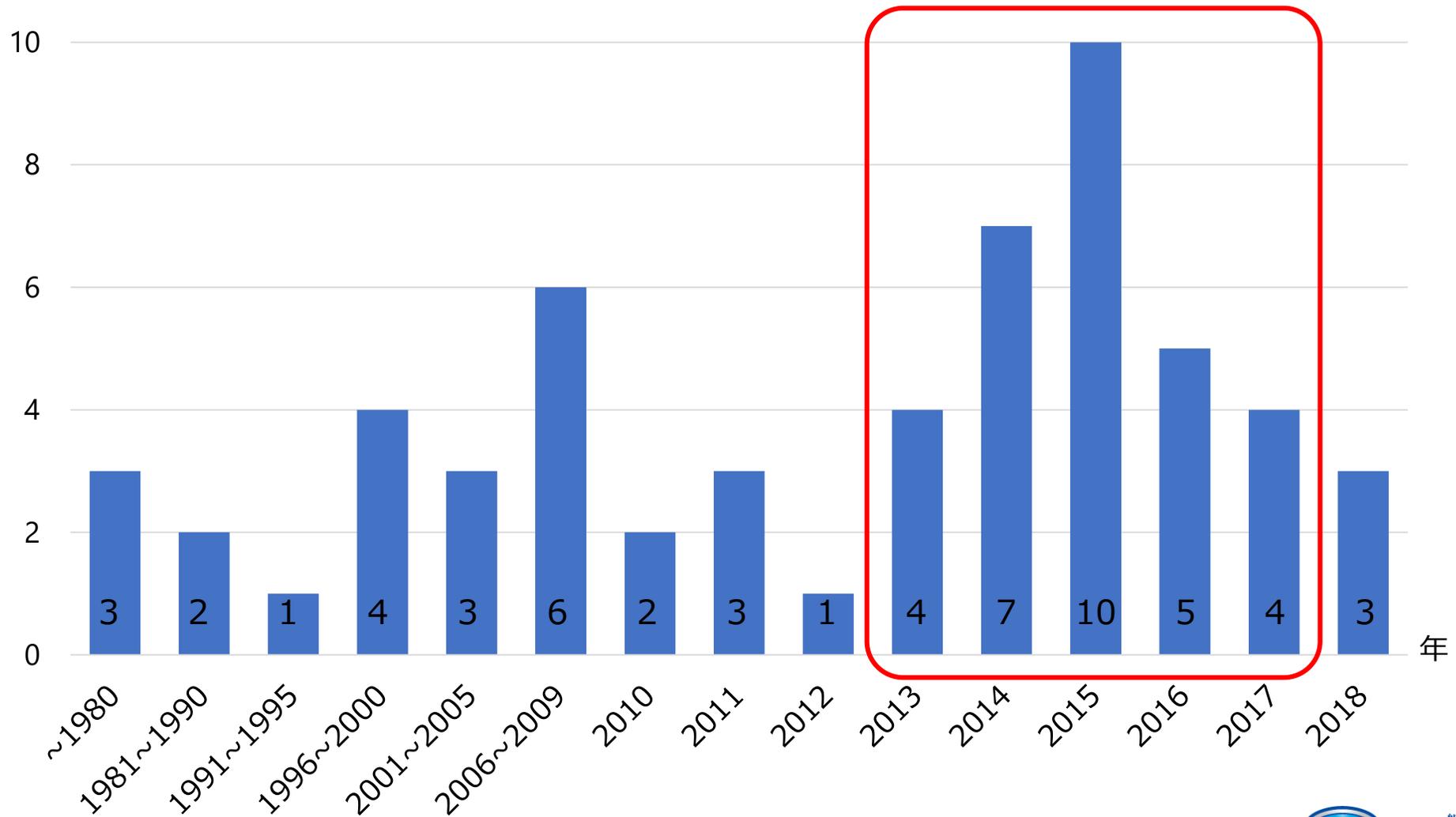


回答者のうち70%以上が防災活動・防災教育を行った経験があった

防災活動・防災教育を開始した年

人 12

回答者の約半数が2015年前後（2013～2017年）から防災活動・防災教育を開始した



N=63

活動の対象（複数回答可）

地域（自治体・自治会・管理組合等）

56.3

会社・団体等

32.8

学校（児童生徒）

25.0

学校（教職員・PTA等）

21.9

その他

21.9

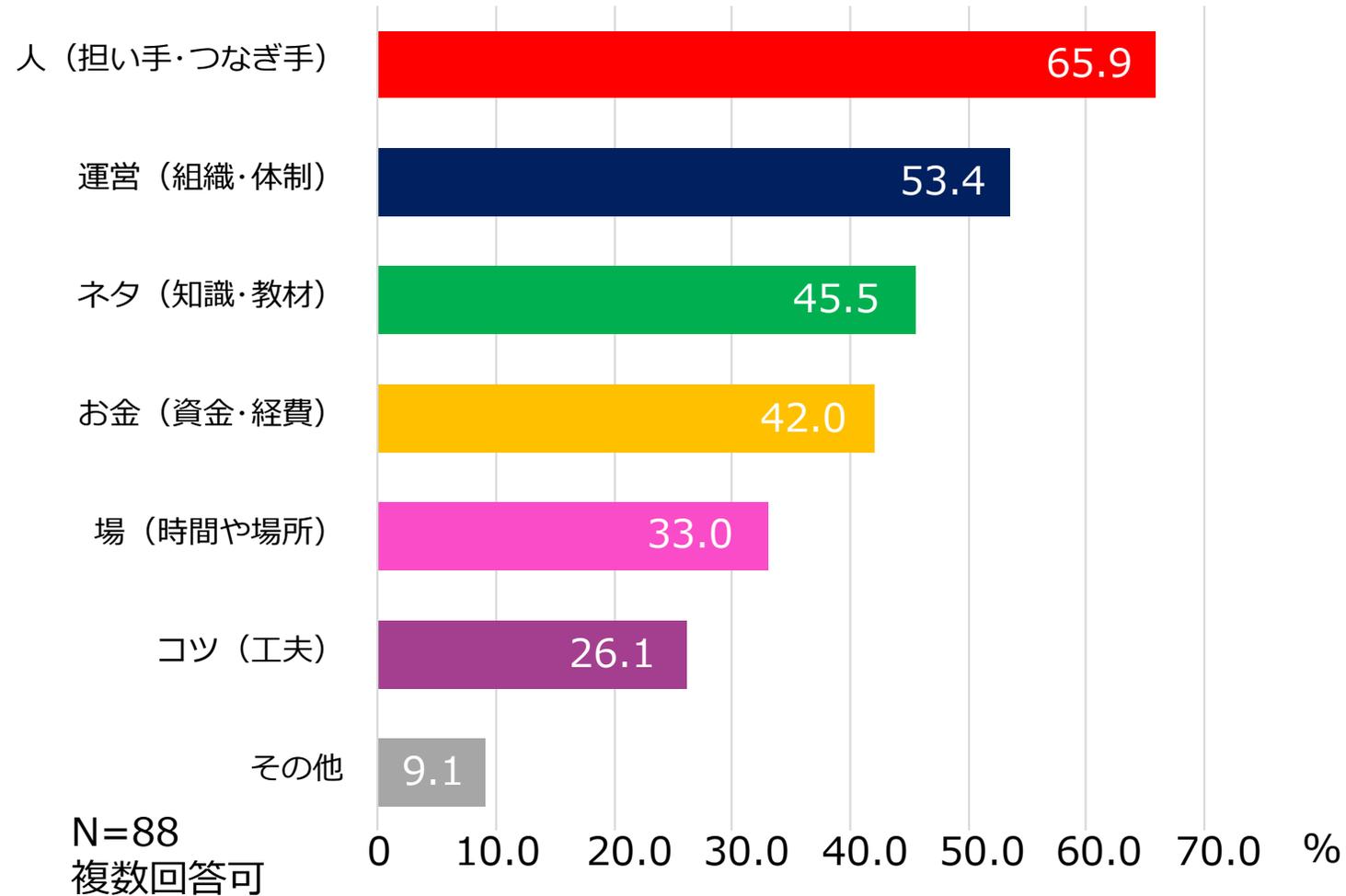
N=64
複数回答可

0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 %

防災活動・防災教育を行っている方の半数以上が地域（自治体・自治会・管理組合等）で活動していた



防災活動・防災教育に取り組むにあたって現在課題に感じていること（複数回答可）



回答者のうち半数以上が人（担い手・繋ぎ手）、運営（組織・体制）について課題を感じていた

自分が関わっている防災活動・防災教育に当てはまること



準備・活動時間の確保、プログラムの作成・見直し、地域連携はできている一方、ある特定の個人によって周りが引っ張られており、明るく・楽しく・気軽な活動が難しくなっていたり、専門家・他団体との交流が活発でないとする人も少なからず見られた

自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまることの因子分析結果

| | 因子 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-----------------------------|------|------|------|------|------|------|
| 無理をしない範囲で準備時間を確保している | .97 | -.05 | .14 | .29 | .02 | -.43 |
| 無理をしない範囲で活動時間を確保している | .89 | -.13 | .08 | -.08 | .16 | .08 |
| 活動内容に見合った活動場所を確保している | .69 | -.17 | -.01 | -.14 | .13 | .26 |
| 活動している人の負担にならないように配慮している | .49 | -.21 | -.14 | .32 | .18 | .20 |
| 活動内容に見合った活動資金を確保している | .48 | .30 | -.24 | .07 | -.12 | .16 |
| 実践している活動を引き継ぐ人がいる | -.17 | 1.07 | -.04 | .09 | .15 | -.13 |
| 引き継ぐ人の育成をしている | -.22 | .83 | .08 | .04 | .03 | .14 |
| 無駄のないよう工夫をしながら活動資金を使っている | .26 | .36 | -.28 | .14 | .03 | .30 |
| 困った時には経験豊富な人からアドバイスを受けられる | -.03 | .28 | -.22 | .24 | .21 | .06 |
| 活動する際には、自主的に動くようにしている | -.08 | -.03 | .80 | .07 | .02 | -.04 |
| 無理をせず自分達ができる活動をしている | .13 | -.18 | .59 | .13 | -.06 | .32 |
| 活動の成果を、外部に発信している | .43 | .24 | .53 | -.29 | -.11 | .11 |
| 蓄積された活動は、マニュアルや報告書などでまとめている | .20 | .38 | .44 | -.08 | .08 | .02 |
| 活動する地域の被害想定（ハザードマップ等）を知っている | -.08 | -.04 | .41 | -.03 | .29 | .13 |
| 明るく楽しく気軽な活動になるよう工夫している | .10 | .03 | .01 | .66 | .01 | -.03 |
| 専門家や他団体と積極的に交流するようにしている | -.21 | .21 | .30 | .52 | .07 | .23 |
| 個人の活動ではなく「組織」として活動している | .23 | .31 | -.02 | .51 | -.27 | -.07 |
| 他の団体と共同で活動することがある | -.06 | .06 | .10 | .44 | -.07 | .14 |
| 活動した内容は、定期的に見直しをしている | .22 | .23 | -.02 | -.11 | .97 | -.07 |
| 活動するときには、プログラムや教材などを作成している | .20 | .08 | -.02 | -.09 | .60 | -.04 |
| 防災の専門知識や最新情報を収集するようにしている | -.12 | -.18 | .30 | .27 | .57 | -.07 |
| 地域の中心人物（自治会長など）との連携ができています | .10 | .03 | .23 | .09 | -.07 | .84 |
| 地域で活動している関係機関と連携ができています | .06 | .22 | .22 | .14 | -.05 | .58 |

23項目について
因子分析を行ったところ、
①活動時間・場所、
②人材確保・育成、
③自主的な活動・情報発信、
④気軽な活動・
他団体との交流、
⑤活動のプログラム化・
見直し、
⑥地域との連携
といった6因子が抽出された。

まとめ

- 回答者の67.4%が男性、27.4%が女性で、半数以上が40～60代であった(4-5p.)
- 回答者のうち70%以上が防災活動・防災教育を行った経験があった(6p.)
- 回答者の約半数が2015年前後（2013～2017年）から防災活動・防災教育を開始した(7p.)
- 防災活動・防災教育を行っているとは回答した半数以上が地域（自治体・自治会・管理組合等）で活動していた(8p.)
- 回答者のうち半数以上が防災活動・防災教育に取り組むにあたって、人（担い手・繋ぎ手）、運営（組織・体制）について課題を感じていた(9p.)
- 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまる事について、『地域における防災教育の実践に関する手引き』における、「防災教育を実践する上での五箇条」「防災教育を実践するにあたっての18ポイント」に書かれている計23項目を基に尋ねたところ、準備・活動時間の確保、プログラムの作成・見直し、地域連携はできている一方、ある特定の個人によって周りが引っ張られており、明るく・楽しく・気軽な活動が難しくなっていたり、専門家・他団体との交流が活発でないとする人も少なからず見られた(11p.)
- 上記の23項目について因子分析を行ったところ、①活動時間・場所、②人材確保・育成、③自主的な活動・情報発信、④気軽な活動・他団体との交流、⑤活動のプログラム化・見直し、⑥地域との連携といった6因子が抽出された。人々は防災活動・防災教育を、6つの側面から認識・評価していることが考えられる(12p.)





弊会では本アンケート調査結果をふまえ、防災教育の普及啓発に向けて様々な活動に取り組んでまいります。
今後ともご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

一般社団法人防災教育普及協会
<http://www.bousai-edu.jp/>

